

平成28年度全国及び岡山県学力・学習状況調査 結果と今後の取組について

津山市立鶴山中学校

教育目標(めざす児童生徒像)

- 『命を輝かし 人と自然を大切に生きる』
- 自ら考え正しく判断し行動できる生徒
- 夢や目標をもち進んで学習する生徒
- 仲間を信頼し感謝の気持ちが表現できる生徒

今年度の指導の重点

- ①規範意識の向上。基本的生活習慣の定着を図る。
- ②学習規律の確立と学習意欲の向上を図る。
- ③家庭学習・授業改善を推進する。
- ④学習機会の拡充を図る。
- ⑤保護者・地域との連携・小中の連携した教育活動を推進する。

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)

【学力状況調査の結果】

- 全国(中3)
- 国語A,国語Bについては、県平均と比べると正答率はわずかに低く、県平均との差が昨年度より縮まった。
 - 国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域においては、県平均を上回ったが、「読むこと」の領域では課題がある。
 - 数学A,数学Bについては、県平均と比べると正答率は低い。
 - 数学Bの「図形」の領域では、県平均を上回ったが、数学A,Bの「関数」、「資料の活用」の領域に課題がある。
- 県(中1)
- 国語の正答率は県平均と同じだが、社会、数学、理科の正答率は県平均を下回った。
 - 数学A,B,理科Aについては、県平均との差が昨年度より縮まった。
 - 各教科で、県平均を上回った領域・問題
 - 国語・・・「漢字の読み、書き」、「文法・語句の知識」、社会・・・「県・地域の様子」、
 - 数学・・・「小数や分数の計算」、「四則計算の性質」、理科・・・「生物の体のつくりとはたらき」
 - 各教科で、県平均を下回った領域・問題
 - 国語・・・「話すこと・聞くこと」、社会・・・「歴史」、「政治の働き」、数学・・・「図形」、理科・・・「太陽の動きと気温」
 - 全体的に、活用型(思考・判断・表現)の問題に課題がある。

【学習状況調査の結果】

- 家庭での学習時間(1時間以上)の割合は、3年生では県より高く、1年生では県より少し低い。また、家庭学習を全くしない割合は1,3年生とも県を下回っている。
- 3年生では、自分で計画を立てて家庭学習(宿題、予習、復習)をする生徒の割合が、県よりも高い。
- 平日のテレビやDVD視聴の時間は、県に比べ短いが、携帯電話やスマートフォンの所持率は1,3年生とも県よりもやや高く、ゲーム、通話やメールを1時間以上する生徒の割合も1,3年生とも県よりも高い。
- 「読書は好きだ」という項目に肯定的な生徒の割合は高いが、平日の読書時間(30分以上)の割合は1,3年生とも県よりも低い。
- 「あいさつ」の項目は、県の割合とほぼ同じである。
- 「人の気持ちの分かる人間になりたい」、「人が困っているときは、進んで助ける」、「いじめは、どんな理由があってもいけない」という項目に肯定的な生徒の割合は1,3年生とも県よりも高いが、「学校の規則、きまりを守る」の割合は、県よりも低い。
- 「自分にはよいところがある」という項目に肯定的な生徒の割合が1,3年生とも高く、「学校に行くのが楽しい」と答える生徒の割合も県よりも高い。
- 地域の行事へ参加している生徒の割合は、1,3年生とも県よりも高く、地域とのつながりが見える。

成果と課題

- 国語、数学ともに活用型(思考、判断、表現)の問題を苦手としており、特に記述式の問題に対して無回答率が高い。
- 国語では、読む能力に課題があり、他の教科でも文章の読み取りが充分でないことが誤答や無回答の要因になっていると思われる。
- 「各教科の勉強は好き、大切」と答える生徒の割合は高い。また、「授業でわからない問題は先生に尋ねる」という生徒の割合も高く、学習に対して前向きな生徒が多い。
- 「自分で計画立てて家庭学習する」生徒の割合が高い反面、メディアを利用する時間が多い生徒の割合が高く課題である。
- 授業導入の「目標(めあて・ねらい)は示された」、授業終末の「振り返る活動が行われた」の項目の割合が高いことは授業改善の取り組みの成果であるが、「話し合う活動」など生徒の活動の場面を設定することを意識した取り組みが必要である。
- 「自分にはよいところがある」の項目で、肯定的な回答する生徒の割合が高い。
- 「人の気持ち」、「いじめ」についての項目では、肯定的な生徒の割合が高いが、「学校の規則、きまりを守る」の割合が少し低く課題である。

課題に対応した改善方法

- 授業導入では、興味・関心を高める「目標(めあて・ねらい)」を明示し、授業内容の見通しを明確にする。また、授業終末では、「振り返る活動」を行い、基礎・基本の定着を図る。その際に、データベースの問題なども活用する。
- 各単元の確かめ問題(テスト)としてデータベースの問題を活用し、基礎・基本の定着を図るとともに、定着が不十分な問題については再度授業で復習する。
- 全教科で、学習内容や思考を共有する活動を設定するように意識し、学習形態(ペア、グループ)を工夫した授業展開を行う。
- 数学における少人数指導を実施し、コースに合わせた適応問題を各単元に位置づける。
- テスト週間の「質問教室」、長期休業中の「補充学習」を実施し、個別指導を行う。
- 3年生対象に、週1回の放課後学習会、月2回の土曜日学習会を学習支援ボランティアと連携して実施し、学習習慣をつける。
- 朝読書の時間を大切に、本に親しみ、読書習慣を身につけるとともに、落ち着いた1日をスタートする。
- 道徳、学級活動、特別活動を通して、集団づくり、規範意識の向上、リーダーの育成を図る。

取組の検証方法及び検証時期(2学期末及び年度末)

- 中2学力定着状況たしかめテストの実施(11月)
- 学校評価アンケート(生徒、保護者)の実施(12月)
- 授業自己評価シート、問題データベースの活用状況の確認(随時)
- 過去問題を用いて、学力の定着状況を把握する。(定期考査、確認テスト)
- 上記の結果を検討、分析し、改善方法の見直しを図る。

各校の具体的な達成目標(数値目標等)

- 全教科の基礎(A)問題の平均正答率で県平均に近づける。
- 各教科の「授業がわかる」と回答する生徒の割合を75%以上にする。
- 家庭学習が1時間以上の生徒の割合を70%以上にする。
- 「学校の規則、きまりを守る」の割合を県平均以上にする。